

報 告 書

令和4年3月
岡崎市行財政調査会

はじめに

わが国の経済は、新型コロナウイルス感染症による厳しい状況が徐々に緩和され経済社会活動が正常化に向かう中で、持ち直しの動きがみられるようですが、度重なる変異株の再拡大により依然として先行き不透明な状況が続いています。

本市においても、コロナ禍の長期化による財政への影響は甚大であり、市税収入の水準はコロナ前の状態を下回っていることから、これからも厳しい行財政の運営が見込まれます。一方で、社会保障関係経費及び老朽化した公共施設の維持管理費の増加、新型コロナウイルス感染症対策、行政のデジタル化などへの対応も求められています。

岡崎市行財政調査会では、令和2年5月に委員委嘱されて以来、延べ6回の会議を行い、平成27年度から令和2年度までを計画期間とする「岡崎市行財政改革大綱」及びその具体的な計画である「岡崎市行財政改革推進計画」の進捗状況について意見を述べてきました。また、令和3年度から令和12年度までを計画期間とする新しい行財政改革大綱及び推進計画に関連した様々なテーマについても意見を述べてきました。

ここに、岡崎市行財政調査会の2年間の活動をまとめた報告書を提出しますので、その趣旨を十分に認識していただき、不断の行財政改革を推進されるよう要望します。

審 議 経 過

	会議	議題	審議内容
1	令和2年度第1回 R2. 6. 18	会長及び職務代理の選任について	本調査会の会長を岩月幹雄委員、職務代理を米津眞委員とすることとした。
		行財政改革推進計画令和元年度実績報告について	行財政改革推進計画の令和元年度取組実績の説明を受け、報告内容や個々の推進項目について意見を述べた。
		行財政改革大綱案及び推進計画について	次期行財政改革大綱案及び大綱に基づき作成する次期行財政改革推進計画の位置付けについて説明を受け、意見を述べた。
		今後のスケジュールについて	令和2年度の年間スケジュールの説明を受け、了承した。事務事業評価の外部評価については、3年間で市の全施策を評価するローテーションが前年度で終了したことと、新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から休止することとした。
2	令和2年度第2回 R2. 10. 27	岡崎市行財政改革大綱（案）のパブリックコメントの結果報告及び最終案について	次期行財政改革大綱案のパブリックコメントの結果及び大綱の最終案について説明を受け、意見を述べた。
		行財政改革推進計画について	次期行財政改革推進計画策定の進捗状況について説明を受け、意見を述べた。
3	令和2年度第3回 R3. 2. 22	行財政改革推進計画について	次期行財政改革推進計画の概要及び計画に掲載する具体的な取組について説明を受け、意見を述べた。
4	令和3年度第1回 R3. 6. 18 (書面開催)	行財政改革推進計画令和2年度実績報告及び総括報告について	行財政改革推進計画の令和2年度取組実績と平成27年度から令和2年度を計画期間とする行財政改革大綱及び推進計画の総括報告について説明を受け、報告内容や個々の推進項目について意見を述べた。
		行財政改革推進計画に基づく今年度の取組について	行財政改革推進計画に基づく令和3年度の主な取組について説明を受け、意見を述べた。

5	令和3年度第2回 R3.11.17	市民参加型市政の推進について	市民参加型市政の推進について説明を受け、意見を述べた。
		公共施設に係る諸課題とその対策について	老朽化を始めとした本市の公共施設の諸課題について説明を受け、意見を述べた。
		岡崎市デジタル・トランスフォーメーション(DX)推進計画の策定について	おかげDXビジョンの概要について説明を受け、意見を述べた。
6	令和3年度第3回 R4.2.25 (書面開催)	行財政調査会報告書(案)について	行財政調査会報告書案の確認をして、今後の事務の執り進めを承認した。
		令和4年度以降の行財政調査会の活動内容について	令和4年度以降の行財政調査会の活動内容について説明を受け、意見を述べた。

意見内容

2年間の活動を通して、本市の行財政改革大綱及び推進計画に関わる議題に対して発言された主な意見をまとめました。

1 議題「行財政改革大綱案及び推進計画について」

(令和2年度第1回 令和2年6月18日開催)

- ・これからはA I など先進技術を活用する場面が多いと思うので、自前のデジタル人材の育成だけではなく、外部人材の登用も必要である。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響を意識しながら行財政改革に取り組む必要がある。
- ・推進計画の策定について、行政経営課が各部署との調整に終始するのではなく、リーダーシップを発揮して取り組んでもらいたい。

2 議題「行財政改革推進計画（主に市役所業務のスマート化）について」

(令和2年度第2回 令和2年10月27日開催)

- ・窓口でタブレット等を使ったペーパーレスによる手続きができるといいと思う。
- ・それぞれの自治体が独自にデジタル化に取り組むことが無駄な投資にならないかと危惧している。とりわけ業務システムについては、自治体間で共通のプラットフォームを開発して導入するべきではないか。
- ・新型コロナ禍による歳入減は、ある意味、財政改革のチャンスではないかと考える。今までと同じ予算要求はできないことを職員全員が理解し、変わらなければ業務が実施できないとの覚悟で予算を作ることが必要である。
- ・組織があるから組織を維持する業務に専念する。組織を整理することで選択とシュリンクができるのではないか。
- ・戦略の中の「多様な主体との連携」や「先進技術の駆使」においては、専門家の活用が必要である。
- ・デジタル化が進んでも、高齢者が取り残されないような取組が必要である。
- ・市役所からの通知や、市役所への問い合わせ等もスマホで全て行われるように

なると便利である。

- ・推進計画の作成について全庁をあげて取り組むポイントとして、職員の士気の高揚が重要である。

3 議題「次期行財政改革推進計画について」

(令和2年度第3回 令和3年2月22日開催)

- ・職員には人材もコストもスリムになることに意識をもって進めていただきたい。
- ・プラスになる実績数値が出ることで職員の意識の高揚につながるため、毎年実績を出すことで、段階的に意識が高まることを期待する。
- ・事業の廃止・縮減は重要な取組である一方、時代の変化に合わせていかに新規事業を立ち上げて新しい岡崎市を作っていくかを考える姿勢や取組も重要である。廃止・縮減と同時進行で新規事業の取組が実施できるような、先を見ることのできる人材の育成も重要である。
- ・戦略4の人材の育成が第一である。物事のプラスマイナスを考えて行動を起こす意識があつてこそ、改革に取り組むことができるので、意識改革を実行してもらいたい。
- ・この推進計画どおり進めば10年後の市役所は現在とまるで違うものになっていると思うが、職員全員がそのイメージを持っているだろうか。この計画を実行するためには行政経営課だけでなく、全庁体制で推進してもらいたい。
- ・外部人材の登用については、デジタルに関する取組が掲載されているが、今後は様々な分野で専門家が必要になるのではないかと。
- ・DXを推進し、例えば事務処理の人材を半分にしても、残りの半分は仕事を奪われるのではなく、創造性の高い業務を任せられるというように、前向きでモチベーションが上がる行財政改革であってほしい。

4 議題「行財政改革推進計画に基づく令和3年度取組について」

(令和3年度第1回 令和3年6月18日開催 ※書面会議による書面表決日)

- ・民間企業と連携する意義として、「スマートでスリムな行政運営」のスリム化・

効率化ばかりに目を向けるのではなく、「市民参加型市政」の役割を担っているという認識も持っていただきたい。

- 市役所の「部」「課」の壁を打ち破り、D Xに深い知識・技術を持つ数名の若手職員で横断的なチームを構成し、行政D Xを推進してはどうか。
- R P A導入のさらなる加速を期待したい。
- 業務標準化セミナーの開催は大きな効果が期待されるが、期待で終わることのないよう、庁内へ定着する仕組みを構築していただきたい。

岡崎市行財政調査会委員名簿

任期 令和2年5月20日～令和4年3月31日

氏名	役職名等	備考
委員 青木 鉄彦	公募委員	
委員 岩田 香織	公認会計士	
会長 岩月 幹雄	商工会議所副会頭	
委員 加藤 雄一郎	有識者（民間企業経営者）	
委員 菅原 俊彦	連合愛知三河中地域協議会副代表	任期は令和3年10月5日まで
委員 播元 公昭	連合愛知三河中地域協議会副代表	任期は令和3年10月5日から
委員 平賀 美希	大学生	任期は令和3年2月22日まで
委員 遠田 琳夏	大学生	任期は令和3年6月8日から
委員 三浦 哲司	名古屋市立大学准教授	
委員 三浦 美知子	税理士	
委員 横山 深雪	公募委員	
職務代理 米津 眞	有識者（民間企業経営者）	

※役職名等は委嘱時点のもの